

外国人留学生一般選抜

入試のポイント

- ・2科目「国語・英語」方式、「小論文」方式、デッサン課題「静物」「手」方式の4科目のうち、2科目まで併願可能。
- ・全国5会場にて実施。

会場

京都、東京、名古屋、岡山、福岡 会場地図はP53

コース併願 (無料)

4コースまでの併願が可能。また、本学併設の京都芸術デザイン専門学校と併願が可能。

1 インターネット出願登録

12月22日(月)～2026年1月6日(火)

※最終日は23:59まで登録可



2 出願書類提出

12月22日(月)～2026年1月7日(水)

※必着



3 試験日

2026年1月29日(木)



4 合格発表

2026年2月6日(金)

インターネット出願サイトで発表

※10:00に公表

(インターネット出願サイトへのログインが必要です)



5 入学手続

手続締切日 |

2026年2月18日(水) 手続締切

重 要

外国人留学生一般選抜は、出願資格が他の入試区分と異なります。
出願時に「留学」の在留資格があり、在留期間が2026年3月31日までであることが追加の出願条件です。
出願時に更新の手続きをしている方は出願できます。

試験科目

【午前】「国語・英語」「鉛筆デッサン－手」「鉛筆デッサン－静物」 【午後】「小論文」「鉛筆デッサン－手」「鉛筆デッサン－静物」
午前と午後より1科目ずつ最大2科目受験することが可能です。1科目のみの受験も可能です。
午前と午後で同一科目を受験することはできません。

評価のポイント

「鉛筆デッサン－手 / 静物」	観察力・構成力・表現力
「小論文」	読解力・論理的思考力・文章表現力
「国語・英語」	基本的知識・文章読解力などの基礎学力

加えて、各科目共通している高等学校までの基礎的な学習に実直に取り組んできた継続力と提出書類(各種証明書など)を含め総合的に評価します。

判定方法

科目ごとに合否判定を行います。2科目受験した場合は、成績順位の高い科目で判定します。
2~4コース併願し、複数コースで合格基準に達した場合は、志望順位の高いコースのみ合格となります。

1 インターネット出願登録

手続

インターネット

検定料

35,000円

① コース・試験科目・試験会場を選ぶ

4コースまでの併願が可能。併願する場合は志望順位を決めてください。

② 出願登録

証明写真をデータで用意し、フォームより出願登録をしてください。【詳細はP46】

③ 検定料の納入

【詳細はP47】

※コース併願無料/何科目受験しても検定料は変わりません

2 出願書類提出

手続

郵送 または 窓口持参

① 出願書類提出

入学願書等をダウンロード・印刷のうえ、郵送または窓口持参にて提出してください。出願に必要な書類はP42-43を確認してください。窓口受付【月~土 9:00~17:30(日・祝休)、年末年始期間の窓口受付は行なっていません。

※海外から郵送する場合は日数がかかりますので早めにインターネット出願登録を行い、すぐに書類を提出してください。必着日は変わりませんのでご注意ください。

【詳細はP48】

② 受験票をダウンロード

インターネット出願登録の際に登録されたメールアドレスに受験票発行通知メールをお送りします。各自でダウンロード・印刷し、試験日にお持ちください。試験当日の注意事項が記載されています。合格発表まで大切に保管してください。

※試験日3日前になっても受験票発行通知メールが届かない場合は、アドミッション・オフィスまでお問い合わせください。【詳細はP49】

3 試験日・試験会場

試験時間 | 【国語・英語】11:30~13:00 【小論文】14:30~16:00
【鉛筆デッサン - 静物・手】午前 10:00~13:00 / 午後 14:30~17:30

試験会場 | 選択した会場で実施。

会場地図はP53

試験当日の入構は、京都会場は8:30、その他の会場は9:00からです。

試験開始20分前には、着席してください。【詳細はP50】

4 合格発表

審査にあたっては、日本留学試験「日本語」の成績または日本語能力試験の結果等も総合的に判定します。
合格者へは合格通知と入学手続書類を大学より送付します。不合格者への通知は送付しません。

5 入学手続

締切日までに入学手続時納入金を納め、入学手続を済ませてください。【詳細はP55】

国語・英語	
試験内容	国語 現代の国語、言語文化(古文・漢文を除く) 英語 英語コミュニケーションⅠ、英語コミュニケーションⅡ、英語コミュニケーションⅢ、 論理・表現Ⅰ、論理・表現Ⅱ 以上の範囲から出題。課題文を読み、関連の設問に解答(マークシート)。
時間	11:30～13:00(1時間30分)
配点	200点(国語100点／英語100点)
携行品 (使用可能用具)	筆記用具(鉛筆またはシャープペンシル、 消しゴム、鉛筆削り)
大学準備物	問題用紙、解答用紙(マークシート)

ねらい

[国語] 専門的知識を問う問題ではなく、大学生レベルの学習で必要とされる語彙力と、文章の読解能力を問おうとする。語彙は漢字語や慣用句を問う形を取るが、単なる知識だけではなく、その運用能力を問う問題である。また読解能力を問うため、評論文・論説文・小説などを題材にして一定の長さの文章の内容理解について問題が出題される。
[英語] 長文読解をはじめ、語彙、熟語、構文問題が中心に出題される。長文は芸術、文化、美術、デザインをテーマとした内容が多く、入学後、専門領域で必要となる英語の運用能力が問われる。表やグラフ問題では英語情報を的確に理解する力が求められ、語順や文章の流れを問う問題ではコンテキスト(文脈)を正確に把握する力が求められる。

アドバイス

[国語] 難しい漢字の書き方を練習する必要はないが、漢字の勉強は大切。漢字の問題とは、文脈の中でどの漢字(漢字熟語)を使うか、という「語彙」の問題であることを意識して欲しい。また、読解能力の向上のために、文章中のキーワード・段落の組み立て・表現の流れなどに注意しながら現代文の問題(大学入学共通テストや私大文系向けのものが適切)を解いてみよう。日ごろから興味ある分野の読書に親しむ事も大切である。
[英語] 英語雑誌やインターネット情報の中で芸術、文化、美術、デザイン等、身近で興味深いと思える英文に少しでも多く触れておくことが大切である。中学・高校で学習した英単語、熟語の復習や暗記、苦手な文法項目の強化、またTOEIC等実用的な英語運用能力を高めるための練習問題を解いておくことが、入試に向けても効果的な勉強法である。

小論文	
試験内容	与えられた文章について自分の考えを論述する (600～800字)。
時間	14:30～16:00(1時間30分)
配点	200点
携行品 (使用可能用具)	筆記用具(鉛筆またはシャープペンシル、 消しゴム、鉛筆削り)
大学準備物	問題用紙、解答用紙、下書用紙(A4白紙)1枚

ねらい

以下の4点から評価をする。
・理解力(問題文の内容を把握しているか)
・表現力(日本語の表現・表記の妥当性、誤字・脱字の有無、文字数の過不足など)
・構成力(段落構成が適切であり、論旨が一貫しているか)
・内容(設問の解答として説得力があり、かつ主張に独自性・論理性・客観性があるか)
問題文は、芸術・人文・社会・自然などの分野から、評論文・論説文・エッセイなどを題材とする。

アドバイス

小論文試験では、問題文をじっくり読み、内容を理解することが重要である。従って第一に、日頃からさまざまな分野の多種多様な文章を読み、慣れおくことが必要である。第二に、600字から800字で小論文を書く練習が必要である。物語や詩などの創作とは異なり、小論文では問題文に即しつつ、自分独自の考えや主張を論理的かつ客観的に述べなければならない。人に読まれることを想定して書き、身近な人(先生や保護者など)に添削してもらい機会をもつことも大事である。

鉛筆デッサン— 静物	
試験内容	与えられたモチーフを自由に配置し、B3画用紙に鉛筆でデッサンする。
時間	午前 10:00～13:00(3時間) 午後 14:30～17:30(3時間)
配点	200点
携行品 (使用可能用具)	鉛筆、消しゴム(ねり消し含む)、羽ぼうき(製図用ブラシ含む)、カルトン、カルトン用クリップ、鉛筆削り用具、デスクエル、はかり棒、擦筆、ティッシュペーパーおよびガーゼ
モチーフ・課題の公表内容	紙コップ(白色3個)と公表モチーフ1種を描く。 ※試験ごとに、紙コップ3個と公表モチーフ1種(P30)が出題されます。※モチーフの詳細や出題に関する質問にはお答えできません。
大学準備物	問題用紙、モチーフ、解答用紙(B3画用紙)、 下描用紙(A3白紙)1枚、下敷用紙(B2ケント紙)1枚

ねらい

デッサンは、芸大生の基礎的素養として、観察力と表現力を磨くための格好の学習方法です。入学前から対象をよく観察し、描くことをとおして固定観念的な見方を疑い、様々な観点から見ることを深めるデッサンの経験が求められます。本学では、モチーフ「静物」を設定し、観察力と表現力を問うデッサンの試験を実施します。

アドバイス

デッサンで大切なのは、まず対象を前にして自身のものの見方を疑い、観察と表現の関係を描きながら深めることです。デッサン「静物」で最も難しいのは全体の位置関係やバランスでしょう。まずは、5分から10分程のクロッキー(速写)に取り組んでみてください。構図のバランスや、個々の大きさとプロポーションを大きく捉えてみましょう。その時、細部にこだわりすぎていると時間が足りなくなるので、必ず、決めた時間内で全て描くつもりでやってください。描いたものと対象をよく見比べて、何かおかしいと気付いたら、すぐに消さずに正しいと思う線を上から重ねてみましょう。クロッキーを沢山描くと、対象の本質的なことを意識できるようになってきます。クロッキーの時間を少しずつ長くして明暗のトーンや質感を描き分けていくと、自然とよいデッサンになるでしょう。計り棒などで計測しなくても、感覚的にプロポーションや全体の関係が描けるようになるまで、クロッキーとデッサンの経験を重ね、沢山描いてください。

鉛筆デッサン— 手	
試験内容	B3画用紙に手を鉛筆でデッサンする。
時間	午前 10:00～13:00(3時間) 午後 14:30～17:30(3時間)
配点	200点
携行品 (使用可能用具)	鉛筆、消しゴム(ねり消し含む)、羽ぼうき(製図用ブラシ含む)、カルトン、カルトン用クリップ、鉛筆削り用具、デスクエル、はかり棒、擦筆、ティッシュペーパーおよびガーゼ
モチーフ・課題の公表内容	自身の手を描く。
大学準備物	問題用紙、解答用紙(B3画用紙)、 下描用紙(A3白紙)1枚、下敷用紙(B2ケント紙)1枚

ねらい

デッサンは、芸大生の基礎的素養として、観察力と表現力を磨くための格好の学習方法です。入学前から対象をよく観察し、描くことをとおして固定観念的な見方を疑い、様々な観点から見ることを深めるデッサンの経験が求められます。本学では、モチーフ「手」を設定し、観察力と表現力を問うデッサンの試験を実施します。

アドバイス

デッサンで大切なのは、まず対象を前にして自身のものの見方を疑い、観察と表現の関係を描きながら深めることです。デッサン「手」で最も難しいのは、自らの身体の一部である手を、柔軟な機能するものとして表現することでしょう。自然な大きさに見えるように構図をとり、皮膚の下にある筋肉や骨格の構造を観察してみましょう。そのために、まず5分から10分程のクロッキー(速写)を行います。肘から手首、指先までのプロポーションを大きく捉えて、生き生きとした線を引いてみましょう。手のポーズがつくる美しい表情も大切です。古今東西で描かれた「手」の表現を調べてみてください。描いた絵と自分の手をよく見比べて、何かおかしいと気付いたら、すぐに消さずに、正しいと思う線を重ねてみましょう。沢山枚数を重ねると感覚的に、描くべきところと省略するところを意識できるようになってきます。クロッキーに慣れ、プロポーションや構図がとれたら、明暗のトーンや質感を観察し、デッサンに移行していきましょう。負いなく描けるようになるまで、クロッキーとデッサンの経験を重ね、沢山描いてください。

○モチーフ公表の意図について

芸術大学の入学試験が、高校までの基礎的な学習を超えた過度の専門性を問われる特異なものであるのは望ましくなく、全国各地で学ぶ受験生のいずれもが等しく基礎的な学習を行った上で入学試験に臨むことができ、かつその学習継続の成果を評価したいという趣旨でモチーフの公表を行なっています。日々継続的に芸術を学ぶ上での基礎力としての観察力・構成力・表現力を磨いた上で入学試験に臨んでください。



紙コップ(白色3個)

公表モチーフ



三千本膠(にかわ)



トング



綿布



タマネギ